

公益事業報告書 (2020 年度)

(公 4-26 TAPA アジアとの協同研究)

1：事業の目的

本事業は一般社団法人 TAPA アジア日本支部 (TAPA ジャパン) が定款で定め、かつ現に事業を行っている“物流セキュリティの普及啓発、及び体制整備等を推進することにより国際物流及び日本における商品の物流行程における品質及び安全性の確保を図り、もって日本の物流産業におけるセキュリティーサプライマネージメントを確立し、物流経済の発展及び公衆衛生の確保に寄与することを目的とする” に対し、TAPA ジャパンの有する技術と当会が有する技術を相互に融合し、日本国内外の物流関係者に対して、セキュリティーサプライマネージメントの推進を目的として、TAPA ジャパン、日本海事検定協会が共同で調査研究を行ったものである。

共同研究 5 年目である 2020 年度の協同研究成果を以下の通り報告する。

2：共同研究の成果

2-1：はじめに

TAPA ジャパンは、ハイテク・高付加価値商品、貴重品等の保全と「企業の資産」の保護を目的とする倉庫を対象としたセキュリティ承認として、「TAPA-FSR (Facility Security Requirements)」を策定し、その中からトラック輸送のセキュリティに特化した対策として「TAPA-TSR (Truck Security Requirements)」を策定した。

2-2 : 活動メンバー

- Chairperson: Narihiko Asou
TAPA APAC Japan Sub-chapter
- Advisor Hiroaki Ohgami
Councilor of Devnet International
- Treasurer: Wataru Futami
Chairperson, Japan Society for Security & Crisis Management
Association
- Secretary: Q-zabro Ohta
Administration, Training & Education, TAPA APAC Japan Sub-
chapter
- Members: Eiji Isono
President, ISONO Body Co., Ltd.
Keisuke Hashimoto
Manager, First Survey Service Center, Nippon Kaiji Kentei Kyokai
Takeshi Ohtsubo
Executive, Managing Director, ISONO Body Co., Ltd.
Masami Kobayashi
Director, DW Associates, San Francisco

2-3 : 活動内容

本年度は TAPA Asia より TAPA FSR2020(英語版)が配布された。

これまで TAPA-FSR2017 版を使用していたため、3年ぶりの改定である。

TAPA Asia と NDA 契約を結んでいるため、内容の詳細をここで述べることはできないが、技術革新や物流トレンドの変更に合わせ内容が改訂されていた。

この TAPA FSR2020 英語版を日本企業メンバー向けに合わせるため、2020年6月から9月にかけて翻訳作業を行い、完成させることができた。

TAPA FSR2020 の構成は下記の通り。

1. Module 1 : TAPA 組織の概要
2. Module 2 : FSR の概要/FSR 認定フレームワークドキュメント
3. Module 3 : 認証及び審査手順
4. Module 4 : セキュリティ全般と検知
5. Module 5 : 外周セキュリティ/境界
6. Module 6 : 施検と高価格ケージのセキュリティの構築
7. Module 7 : 施設および高価格ケージのセキュリティシステム
8. Module 8 : ポリシーと手順
9. Module 9 : 経営者の関与、トレーニング、従業員管理
10. Module 10 : リスク評価
11. Module 11 : 中央機能要件(マルチサイト認証のみ適用)
12. Module 12 : IT およびサイバーセキュリティの脅威(拡張オプション)
13. Module 13 : FSR 審査を実行する方法

しかしながら 2020 年 2 月に発生したコロナウィルスの影響で、集合トレーニングの開催が引き続き難しかったため、ウェビナー形式で開催できないか検討会を行った。

協会が利用している WebEX システムを提供し、また Web システム経由で、厳格な最終試験が実施できるようシステムの構築を行った。

本年度は TAPA Asia の総会も Web 形式で行われたため、TAPA 日本支部からも参加し、TAPA 日本支部独自で策定した食品・医薬品の保管・輸送の安全性に関するセキュリティに焦点を当てた「TAPA-FDSR (Food & Drug Security Requirements)」を紹介した。

2-4：第19回 TAPA-FSR ウェビナートレーニング開催プログラム

<講義プログラム>

2020年10月28日(水)

- 09:15～受付 ウェビナーサイトへアクセス
- 09:50～10:30 TAPA アジア会長及びTAPAアジア講師の挨拶
- 10:30～11:40 TAPA イントロ概論 (設立・普及経緯、組織、役割など)
- 11:45～13:00 TAPA-FSR 2020 要求事項の解説 (Module 5, 6)
- 14:00～15:40 TAPA-FSR 2020 要求事項の解説 (Module7)
- 16:00～17:30 TAPA-FSR 2020 要求事項の解説 (Module8)

<2日目>

2020年10月29日(木)

- 09:15～受付 ウェビナーサイトへアクセス
- 10:00～11:00 TAPA-FSR 2020 要求事項の解説 (Module 9)
- 11:10～13:00 TAPA-FSR 2020 文書などの解説 (Module 全般の解説)
- 14:00～14:30 TAPAアジア講師からの講評、評価、質疑応答など
- 14:40～16:10 Web テスト
- 16:30～17:00 結果、講評及び修了認定書授与
- 17:10～18:00 TAPA-FDSR の概要解説 (自由参加)

3：共同研究の成果 (5年目の共同研究を終えて)

本年度は引き続きコロナ禍に影響があったため、集合トレーニングや集合勉強会の活動が大幅に制限されていたが、TAPA FSR2020 の集合トレーニングを Web 形式で開催することができ、日本国内・アジア地区で TAPA の普及と展開を目的として、日本全国の物流企業から 22 名(内協会職員 1 名を含む)が内部監査員資格講習を受講し、全員が合格した。これにより、国内の物流企業に、TAPA の概念を導入したセキュリティ・システムの導入検討など、確実にセキュリティに関する意識が芽生え始めたと思慮される。

また今回は Web 形式で開催したこともあり、冒頭で TAPA Asia から代表挨拶があるなど、これまでにない試みを行うことができ、初めての Web 形式集合トレーニングであったが、今後につながる成果を上げることができた。

2020 東京オリンピック・パラリンピックが 1 年延期となったが、昨年度の受講者が 19 名だったことを考慮すると、欧米系の荷主と物流取引を行っている企業には、TAPA 認証制度の必要性がますます高まっていることを窺うことができ、引き続き日本の物流産業におけるセキュリティーサプライマネージメントの確立に協力する。

以上